

たけのこの長期保存用缶詰の販売、ヤマザクラの植樹及び夷隅川沿いの桜の植樹について

内容	1. たけのこは大多喜の名産ですが取れる季節は短い。あっという間に終わってしまう。1 年中、訪れた人がお店で食べられるようにするため、缶詰にするのはどうか。友人にたけのこを贈ったところ、缶詰にしたと言われて驚いたことがある。家庭からお願いできる缶詰工場があるのかもしれない。研究してみたらどうか。春以外にもたけのこが食べられると良い。 2. ヤマザクラを植える。大多喜は盆地だから周り中、山に囲まれている。春、桜の季節に周り中のヤマザクラが咲いたらどんなに心が和むことか。奈良吉野の千本桜を見に行つて思いついた。10 年、20 年かかると思うが呼びかけたら協力する人がいるのではないか。 3. 夷隅川沿いを桜の名所にするため桜を植える。場所は夷隅支庁から新丁行徳橋までの間。町民は喜ぶと思う。老人ホーム付近は桜の名所になりつつある。
回答	たけのこの缶詰について ご指摘のとおり、たけのこは大多喜町の特産品であるものの、収穫時期が短く一年を通じて食べるためには、何らかの方法で保存をする必要があります。 大多喜町でも過去には缶詰として保存していた方が多くみられましたが、缶詰の製造においては、加熱による滅菌や封函をする特殊な器械が必要となることや、営利目的とするためには保健所の許可が必要なため、現在は缶詰よりも簡易に製造でき、保健所の許可も要しない真空パックで保存する方が多くなっています。 缶詰は 3 年程度保存が可能とのことですが、真空パックについては、1 年

程度と缶詰に比べ保存期間は短いものの、製造工程が少ないことに加え、缶詰の缶は１個あたり 120 円程度するのに対しパックは１枚 13 円程度と経費も安価であることから多くの方が保存に利用されています。

缶詰と真空パックのいずれも、町の施設「味の研修館」において個人ですることができます。

ヤマザクラの植樹について

御提案のありましたヤマザクラの植樹につきましては、この地域に住む方々の心を和ませることはもちろん、春の代名詞の桜は多くの人々を惹きつけますので、大多喜町を訪れる方の増加に寄与できるものだと考えます。

本町においても、日本さくらの会が実施している桜の若木配布事業を活用し、この若木を植樹してくれる団体を募集しており、過去には、いすみ鉄道沿線、農道脇、公園等への植樹を地域の方々等へ実施してきていただいております。

この事業は、条件はあるものの山林への植樹も可能ですので、町としましては、この事業を引き続き積極的に広報し、大多喜町の豊かな自然環境がより美しいものとなるよう働きかけていきたいと考えます。

夷隅川沿いを桜の名所にするため桜の植樹について

夷隅川沿いを桜の名所とするための桜の植樹のご提案につきましては、行徳橋から夷隅地域振興事務所付近までの河川沿いの道路を管理している千葉県に確認したところ、親水公園として整備した三口橋から行徳橋の区間とは違い、この河川沿いの道路については、河川の管理道として整備をしており、道路脇にはスペースが少なく、桜を植樹した場合、その根により舗装を傷めてしまう可能性が高いことから、植樹は難しいという回答がありました。

	ご提案いただいた場所につきましては上記のとおりですが、桜は町の花木に定めており、町としましても桜をイメージした時に大多喜町が浮かぶよう桜の普及に努めてまいりますので、これからもご提案いただければ幸いです。
--	---